



第百五十七號

(第十四卷)

昭和九年五月

編輯室より

記事輻輳のため荒勝博士の文は本號だけ休み。天文用語の記事は早くも諸方面から反響があり、かなり讀者の注意を惹いてゐるらしい。當然の事である。近いうちに、本會では天文用語に関する意見交換の座談會¹と言つたやうなものを催したい豫定である。

毎日の時刻を呼ぶのに、午前何時、午後何時と言つてゐるのは、今は、日英米だけで、歐洲大陸の國々は多く24時制を幾年か前から採用してゐる。ところが昨年頃から英國内に24時制採用の聲が盛んになり、鐵道や郵便電信其他、天文學界は言ふまでもなく、一般の學界は多くは之れに賛意を表し、保守的な英國人も愈々動いて來た。最近報によれば、英國の放送協會は此の24時制をいよいよ實行に移したと言ふ!! こんな風に英國が動けば、米國もすぐ之れに従うだろう。すると、ぐずぐずするうちに我が日本のみが残されることになるのか!?

本會は創立以來、會則に定めてある通り、毎月一回の例會を催し、多くは講師の講演を主體として、天文學の普及を目的としてゐたが、時代の進歩につれ、會員の中にも天文學的研究的成績が得られるやうになつたので、今般、上記の如き從來の啓蒙的なやりかたを一變し、高尚な興味を中心とした専門的研究的な談話會の形式とし、我が國の學術會合の型に一新例を拓くこととする。會は會長又は其の代理者が座長となり、來會の會員中から數氏の研究結果に関する演說や、其れに對する質問や批評や、紹介等がある。遠近より奮つて御參加を望む。——此の新型式は來る五月の例會より始め、本年中の例會日を次の通り定めた。(いづれも土曜日の午後3時から花山天文臺で開き、會後、天界觀望をする。)

五月26日、六月23日、七月(休み)、八月(休み)、九月22日、十月20日、
十一月17日、十二月8日。

尙ほ、例會の内容は、本誌に「記事¹」として其の大略を載せることとする。其の一例として既に去る四月15日に開いた例會の記事を次頁に掲げる。